

有安さんと大庭さんの 往復書簡

美幸さま

こんにちは！

大雨の影響で少しバタバタしてしまい、返信がすっかり遅くなってしまいました。

こうして手紙を書ける時間は、癒しです！

前回の美幸さんからのお手紙や、最近の「モチポイント」のご投稿から、まっすぐに努力することや、前向きに相手や物事がかかわることについて、たくさん学びをいただいています。

さて、今回は「現状よりバージョンアップしたい物事」についてお話ししたいと思います。

やや壮大な夢でもあるのですが、「仕事上の付き合いでも、『ふらっと頼れる人』になりたい」と考えています。

私はリモートワーカーなのと、コロナ禍で転職して現在のようなPR・マーケティング中心の働き方を作ってきたことがあり、岡山ではない場所の方とお仕事をする機会に恵まれています。

もちろん、それまでのお付き合いもありますので、地元の方からお仕事をいただくこともあるのですが、地元であっても、そうでなくても、現場に赴くということが減っています。

私自身はリモートが身体に合っているみたいで、病気という認識はないものの、なんとなく肌が荒れたり、おなかにこたえたりするようなことが減ったのですが、一方で人が好きなのもあって、「たまには人に会いたいな」と思うものです。

贅沢を申しますと、出張や旅行が大好きで—

そうです。お出かけ、したいのです。

お客さまに医療・福祉関係の方が多いいこともあって、人の流れが増えたとはいえ、オンサイトでお会いするような仕事が減ってしまったのです。

バーチャルオフィスやチャットツールなど、便利なものは利用しつつ、あまり気兼ねせずお出かけできるようになったら、季節に1回くらいは国内であれば足を伸ばしてお会いするとか、そんな働き方ができたらなあと思うのです。

リモート推しなのはかわらないのですが、その場の雰囲気を知るとか、その土地のことを知るとか、やはりそこから得られる気づき・ひらめきが、PRにはとても大事だとも感じます。

いやいや、遊びに行きたいだけという、説が濃厚です。

書いていて整理できてきたのですが、おそらく私がアップデートしたいことの「コア」は、「楽しく働きたい、生活したい」ということなのです。いまでも楽しくないわけではありませんが、根っからの「遊び心」を活用していくことで、理想とする働き方、生き方にもっと近づくかな、と考えています。

そして、その遊び心があってこそ、オンサイトの場でも、ふらっと頼れる人でいられるかなあと思うのです。

十分、自由にさせていただいていますが、もっと力を抜いていくことで、頼りやすい人になりたいし、近所に住む友達などのようにふらっと連絡がもらえて、なにかのときに思い出していただける人になりたいものです。

少し抽象的なことになりますが、アップデートしたいことって、ある意味夢を語る、とても前向きなことですね！

それこそ美幸さんは、誰かから「頼られる」ことが多いように思えてならないのですが、そんな美幸さんが頼りにしている人や、頼もしいなあと感じるときとは、どのようなときですか？

人一倍魅力ある方に出会ってこられたであろう、美幸さんの「頼もしさ論」、よろしければ教えてください。

頼りにしている友達が、ごはんを一緒に食べるために来てくれました。

鍋に仕上げさえすれば、よそって準備してくれる彼はやっぱり頼れる存在。ふらっと来て、持ちつ持たれつが、私にはちょうどいいのです。

有安さんと大庭さんの 往復書簡



遠方から会いに来てくださった仕事の先輩と食べた激ウマつくね！
お食事の場面も、大事ですよね。

愛実さま

こんにちは！

とても早い梅雨明けにより、水不足を懸念していましたら、線状降水帯という記録的な大雨。築30年の実家では、排水が追いつかず雨漏りがあったとか。家も人間も、年数を重ねるとメンテナンスは必須ですね。

さて、今回の私のワードは「頼もしさ」でしたね。

私は2人姉弟の長女なのですが、愛実さんの予想に反して“頼られる”ことは少ないです。小学生時代までは2歳半下の人見知りの弟が、常に私を頼っておりましたが、その関係はその時代まで。マイペース・ワガママな私は、案外末っ子気質なのかもしれません。

そんな私が、今頼りにしているのは、付き合いの浅い“仕事上で知り合った方”です。正直に申し上げると苦手な方。

現在私は「元祇園No.1ホステスが教える…」という肩書で仕事をしているのですが、ここに至るまでには時間がかかりました。

MCとして10年程の経験を持つ私は、当初話し方のプロとして講座を立ち上げました。実のところ、自分でも心のどこかで誰かの真似事のように思っていたのですが、ある日その方に

「美幸さんって上手にお話されるしキレイだけど、面白くないよね。
“あなただから”みたいなブランディングがない。」

とズバッと切り裂かれました。

はい、もちろんいい気分なんかしませんし、
気の強い私はショックと同時に怒りさえ湧いてきました。
でも、そこで立ち止まることが出来たのです。

今思えば、講座を立ち上げた時に友人に報告すると、□を揃えて褒めてくれ
反対どころか辛□コメントの1つもありませんでした。
プライベートでその環境にいるのは居心地が良いですが、ビジネスでは成長しませんよね。
多くの方がそうかもしれませんが、私は特に批判されたり怒られることが、
今でも大の苦手です。
これは、愛実さんとは違った「中二病」なのでしょう。

その方からの言葉を受けて、私は自分を改めて振り返りました。
得意だったこと・頑張ったこと・褒められたこと…など。

そして思い出したのです。
18歳から京都の祇園という夜の街に飛び込み、その世界で這い上がってきたこと。
22歳からは就職もし、それからの6年間は昼と夜の生活を続けてきたこと。
夜の世界を卒業してからは、司会業に就き、ここでも10年程活動していること。
これが、私のブランディングだと気付いたのです。

講師業を始めた頃は、講師を名乗る以上、
「完璧でなくては」「綺麗でなくては」「お手本にならなくては」
と勝手に意気込んでおりました。
でも、自分の強みを見つけた時、それが吹っ切れたんです。

私の中にある毒も見せますし、失敗経験も話します。
誰の言葉でもない私の言葉だからこそ伝わるんですよね。
そして、そうしている自分自身が何より楽しい！！

こんな風に気付かせてくれた事に、今は感謝しております。
その方には、どんな言葉が来ても倒れないようにマインドを整え、
数か月に1度くらいの頻度でお会いして助言をいただいております。

冒頭でも申し上げたように、私はまだその方が苦手です。
ですが、新しいことを始める時は、
新しい気付きや着眼点が必要なことを実感いたしました。
プライベートや遊びとは違い、ビジネスとしてやっていくには、
色々な意見や考えを拾っていかねば「裸の王様」になってしまいます。

ですから、私は感情を抜きにして、ビジネスにおいてその方を“頼り”にしています。

愛実さんは私とは違い、器の広さを感じるのですが、
そんな愛実さんにも苦手な人やモノはあるのでしょうか。
また、“苦手なモノ”に出会った時は、
どのように対処しておられるのかも教えていただけたら嬉しいです。

苦手といえば、私は暑さに弱くこの時期が早く過ぎ去るのを毎年待ち望んでいます。
京都は盆地で、夏は暑く冬は寒いというのに、
生まれてこの方京都を離れられないのは、
苦手より好きが勝っているということなのでしょうね。

美幸



祇園祭、今年は盛大に行われています！
暑いのは盛大じゃなくていいかな～